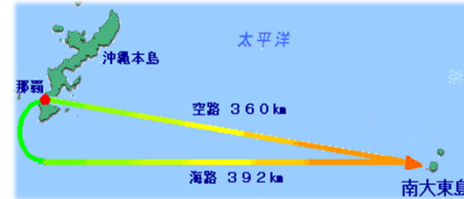


取組主体の概要

- ・所在地: 沖縄県南大東村
- ・取組主体: 南大東村
- ・管理運営: 地産地消促進協議会
- ・栽培作物: リーフレタス等
- ・施設面積: 70m²(保冷コンテナ2基連結)
- ・作業員数: 6名(平成30年7月現在)



導入技術

- ・コンテナ型植物工場(沖縄セルラーアグリ&マルシェ(株)製)
 - ・統合環境制御システム(同上)
- (温度、湿度、水温、CO2等のモニタリング及び制御。別途Wi-Fiルーターを契約すれば、遠隔監視、蓄積データのAI分析も可能。)

植物工場の外観、内部の様子



台風等天候に左右されず、島内の店舗、ホテル、学校給食で葉物野菜を安定的に供給



1袋180円で販売されているちんげんさい

導入経緯

- 夏場は暑さ、台風、少雨のため葉野菜の栽培が困難。
- また、台風等で船が入港できないと物資が途絶え、野菜不足・価格高騰が生じることから、野菜の安定生産・供給が課題であった。
- このため、平成29年度にコンテナ型植物工場を導入した。

取組の特徴・効果

- 平成29年度沖縄離島活性化推進事業(内閣府)によりコンテナ型植物工場を導入、平成30年4月から稼働。(事業費 39,422千円 国費 29,748千円)
- KDDIグループ企業の沖縄セルラーアグリ&マルシェ(株)が持つICT、IoTを活用した水耕栽培システムで、葉物野菜の周年生産が可能となった。
〔生産目標: 1日約200株、年間約7トン出荷〕
- 野菜棚にはLED照明、また、外部には遮熱用屋根を設置することにより、電気使用量を低減することが可能となった。
- 現在、リーフレタス、みずな、こまつな及びちんげんさいの4種を栽培。6月から村内5店舗で販売するほか、ホテル、飲食店、学校給食に供給。
- 今後は、学校給食における島内産のシェア向上(31%→50%)を目指すとともに、コンテナ増設を検討。